

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 6 日作成)

小委員会名	地震荷重小委員会		主 査 名：林 康裕 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 振動運営委員会		委員長名：中島正愛 主 査 名：福和伸夫
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	建築物の性能設計法の実質化を可能とする地震荷重評価法の構築を目指す。 ・初年度：新しい地震荷重設定法の構築に向けた幅広い情報収集と討議を行う。 ・2 年度：幅広い情報収集と課題抽出を行う。 ・3 年度：活断層を考慮した設計用地震荷重に関する PD の実施と、出版物原稿の執筆を行う。 ・4 年度：出版原稿の執筆・校正を行うとともに、シンポジウムを実施する。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無し		
	主査：林康裕 (京都大学) 幹事：壇一男 (清水建設)・石原直 (建築研究所) 委員：大川出 (建築研究所)・森保宏 (名古屋大学)・上林宏敏 (京都大学)・岡野創 (鹿島建設)・土肥博 (NTT ファシリティーズ)・田村和夫 (千葉工業大学)・楠浩一 (横浜国立大学)・麻里哲広 (北海道大学)・北村春幸 (東京理科大学)・野畑有秀 (大林組)・石井透 (清水建設)・山田哲 (東京工業大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	<b>地震荷重と応答評価指標刊行企画WG</b> ：(2011 年度より設置) パルス型地震動や長周期地震動などの大振幅レベル入力地震動に対し、建物の終局状態に至るまでの耐震性能を的確に評価できる応答指標とそのクライテリア・設計用地震荷重の提案を行い、シンポジウム開催や刊行物作成に向けた企画・検討を行う。		
2012 年度予算	380,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：-	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	1. シンポジウム「増大する地震動レベルと今後の耐震設計 -3.11 を踏まえた意識調査を基に」 『同名資料』 <span style="float: right;">参加者数 260 名</span>
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 地震荷重関係出版物『大振幅地震動と建築物の耐震性評価－巨大海溝型地震・内陸地震に備えて』の発刊に向けた作業をほぼ完了した 2. シンポジウムを開催し、260 名の参加者を集めた。 3. 当初の目的を達成し、新たな目標に向けた小委員会の立ち上げを行った。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 地震荷重運営委員会や基礎構造運営委員会などと活動内容の連絡調整を継続している (年 2 回)。 2. 出版物書名に関して、地震荷重小委員会と振動運営委員会の間で調整を行った。